

平成 26 年度

第 17 回米子市水道事業審議会 会議録

○開催日時 平成 26 年 10 月 10 日(金)
午後 1 時 25 分～午後 2 時 25 分

○開催場所 米子市水道局大会議室

○出席者

委員（敬称略）：住田篤美・藤江敏子・櫻田恭一・和田季子・中
嶋紀恵・小椋あけみ・祝部大輔・吉居 努

欠席者：大西喜久子・野田親弘・小林幸子・松田葉子・
田中俊行

米子市水道局：中原水道事業管理者・八幡次長兼計画課長・小
野川次長兼営業課長・松田次長兼給水維持課
長・金田総務課長・星野浄水課長・森井水質管
理課長・松前施設課長・安村境港営業所長・高
林主査兼浄水課戸上配水係長・仲田主査兼給水
維持課給水係長・湯崎総務課会計係長・山内総
務課主任・事務局

○日程

1 議題

- (1) 平成 25 年度米子市水道事業会計決算状況について
- (2) 新配水池設置事業の進捗状況について

2 事務連絡

○公開又は非公開の別
公開

○傍聴者数（報道関係者を除く）
なし

○会議資料の有無
有り

○お問合せ先

米子市水道局計画課企画調査係（TEL. 0859-32-6112）

1 議題（議題の概要及び質疑）

（1）平成 25 年度の決算の概要について

＜案件説明：湯崎総務課会計係長＞

収益的収支の決算について

水道料金収入とその他の収入（加入者納付金・検査手数料など）及び支出について説明。

資本的収支の決算について

収入の総額は約 14 億円で主な内訳は、建設改良費に充てる企業債として、約 12 億円を借入。その他、工事負担金（下水道や土木工事等における負担金）が 1 億 4,500 万円、他会計出資金が 5,900 万円

支出では、配水池設置事業関係により、建設改良費が 16 億円と前年度と比べて多少増加。また企業債償還金（企業債元金の返済）として 8 億円を支出。

収支の差額が 10 億 7,100 万円の不足となり、これを収益的収支で計上した減価償却費で補てん後に、不足する 1 億 4,500 万円を繰越利益剰余金で補てん。

業務の状況について

平成 23 年度から当年度までの 3 年間の、業務実績と推移を報告。当市と鳥取市及び松江市と同時に、同格都市（給水人口 15～30 万人の事業体）と比較。

年間配水量、年間給水量共に年々減少傾向にある。一日最大配水量も平成 15 年頃をピークに減少しつつある。有収率は 92 ポイントで微増。

経営状況（収益的収支）について

収益的収入では給水量と同様、料金収入も若干下がっている状況で前年度比が約 1,200 万円の減、その他の収入を合わせて総収益が 31 億 6,200 万円で、前年比約 1,200 万円の減。

営業活動に使われる営業費用は若干減少し、また主に支払利息である営業外費用も減少した。

総費用は 26 億 7,900 万円で前年度比 5,600 万円の減。

収入から支出を引いた当年度純利益は、4 億 8,200 万円。

資本的収入及び支出について

資本的収入となる企業債は、前年度比で 7 億円増となる約 12 億円

を借入。工事負担金等を合わせて収入は約 14 億円。

支出では企業債償還金は年々少しずつ下がっている。これは過去の大きい借入の返済が、いくつか完了していることによる。

利益剰余金の推移について

将来の企業債元金償還に充てる積立金である減債積立金が 1 億 2、000 万円。建設改良積立金は積立っていない。その他積立金として水源涵養林の取得用に現在 2,900 万円を積立。

純利が年々保たれており、前年比 3 億 3,800 円の増。

企業債残高の推移について

大きな借入が終わってきており、現在の残高は約 101 億円。

財務や経営に関する指標の推移と比較について

7つの区分の指標について、平成23年度から当年度までの3年間の推移を報告。また同格都市と同時に鳥取市・松江市の指標値と、当市を比較。

質疑応答

【住田委員】非常に分かり易く説明していただいた。皆さんご意見ご質問があればご遠慮なさらずにどうぞ。

【藤江委員】今日の資料をいただいて、目でも分かって、頭で理解できると感じた。非常に企業努力をされているなという印象を持った。

【住田委員】前々から米子市水道事業は非常に優秀でして、よその事を心配するのはどうかと思いますが、鳥取市さんの数字を見ますと、大丈夫かなといつも思いますけど、どうしてそうになっているのかご存知ですか。

【湯崎係長】5 ページの利益剰余金の推移を見ていただきますと、鳥取市さんはマイナスになっております。一般的に見ると企業会計は分かりにくいものですが、減価償却費といって現金を出さなくてもその年度の費用に計上して、投資的収支の補てんに充てる数字になります。減価償却費の数字が補てんする額を上回れば、どんどん現金が残ってくることになります。損益勘定留保資金と言いますが、これを鳥取市さんも松江市さんも持っておられます。表に出てくる利益剰余金とは別に将来的に投資や更新に充てる現金を持っているということになり、その意味では松江市さんは 60 億円位現金を持っておられますので、米子市よりも潤沢な資金があるということになり

ます。

将来更新に充てられるお金なんですけれども、表には出てこない現金を、鳥取市さんは確かまだ 17 億位現金を持っておられますが、利益が上がっていないということは持っているお金も減るわけですので、料金改定をせざるを得ないということになってきます。鳥取市も松江市も合併がありましたので、簡易水道が増えて料金を統一されたりしましたが、料金の金額を上げるだけでなく料金の形態そのものを見直す時期が全国的に来ております。

【住田委員】よそのことを言うのはどうかと思うが、鳥取市も料金の改定をやらないといけない時期といった感じはするかな。

【藤江委員】鳥取市の料金については、話を聞いたことがある様な気がします。

【中原管理者】鳥取市さんは料金値上げを考えておられるのは伺っております、近々なのかなと思っております。やはり単年度の収支の状況を見て、考えておられるようです。

【住田委員】その他にお聞きになりたいことはございませんか。

【吉居委員】素人が一つ不思議に思うのは、下水道事業は国からの補助金が出ますが、水道事業は水道料金で水道管などの維持をしている訳です。人間が生活する上で、水道と下水は相通じるものがある。下水がどんどん普及していることは良い事だと思う。水道の老朽化した管を取替えるのは、全て水道料金収入で行っている訳ですよ。

【湯崎係長】基本的にはそれが水道事業として、独立採算制で計画的に料金設定をして行くのがスタイルだと思いますけれども、料金収入だけで賄っていない事業体もあります。そういった場合は、中には一般会計からの負担を頂きながら運営されている事業体もあります。

【吉居委員】下水工事に入っていかれると、ついでにというか古い管は取替えられる訳ですが、下水は国からの補助金が投入される。これは根本的な問題だと思いますが、水道事業というのはこれから大変だと思います。一人しか人がいない場所にも水道管は来ている。核家族化しても家族が沢山おればそれだけ水は使うんですが、水洗トイレを含め色々な節水機器が普及して、本当にこれから将来水道事業が成り立っていくのだろうかという気がしています。

【中原管理者】吉居委員がおっしゃるように、拡張の時代から 40 年 50

年経っておりますので、老朽化した管とか施設がかなり増えてきております。先程お話にも出ましたが、人口減少であったり節水機器の普及で水道の使用量も右肩下がりに減少しており、それに伴い料金収入も下がって来ているのが、日本全体の大体の流れです。片や収入が下がって行く、片や老朽化した管を替えていかなければならないという、非常に相反する状況になっております。ただ水道というのは、最も基本的なライフラインの一つですので、あそこは人口が少ないのでやめるという訳にもいきません。工夫しながら運営していますが、新しい配水池もその一つで、電気代を使って圧力をかけて水道を送っていたのを、高低差を利用して配水します。配水池まで揚水するのに電気は使いますが、その後は重力を使いますので動力費の削減ができます。といった様に公営企業ですので、企業努力をしながらやっているところです。

水道と下水道の違いについては、確かに下水は補助などが結構ございます。それは多分、まだ下水道が100%入っていない都市がかなりありますので、それを早く進めるために国の補助や助成があるのではないかと考えています。実は水道でも補助があるんですが、非常に経営が厳しい事業体に関してであり、米子市は該当していません。その辺の詳しい補足をお願いします。

【八幡次長】資本単価のことだと思いますが、色んな基準がありまして、各事業体で数字を出しております。米子市水道局の資本単価は、以前より高くなりましたが今70円です。企業会計のシステムが変わり、補助の基準は現在は90円になっております。以前は基準に届かなくても申請をしていたんですが、県から要件を満たさないものは、提出しないよう指導がありました。米子市は企業努力をしながら資本単価を下げてきたので、それから見ますと、放漫経営で借金ばかり作って資本単価が上がっているところではなく、本当に努力している事業運営の中身を見て欲しいと、今回日本水道協会を通じて資本単価の要件見直しの要望を提出しております。拡張が終わってまだ間がないですが、拡張期というのは水道管を入れますと、お客様がずっと使ってくださいますので先行投資をしてもペイができます。しかし今は、保守の時代になり、今後は出る一方ですので、これから先には料金の見直しもしていかなければならない時期がやってまいります。今の時点では料金値上

げをしないとはっきり言うておりますので、より一層の企業努力をしながらやっていこうと思っております。

【中嶋委員】今年の夏は冷夏で水道の使用量が例年と比べてかなり、減っていると思うが、来年度は財政的に余裕がありそうなんではないでしょうか。

【小野川次長】上半期の配水量が前年比で約 30 万 m³ 減少しております、前年度と比較して料金収入で 4,500 万円位下がっている状況です。ですからこのペースでは、年間で 9,000 万程度前年より落ちる可能性があるということです。ただ当初予算から見ると前年度は 6,000 万位予算より実績が良く、今年度の当初予算は昨年度の実績より、9,000 万下げて組んでおりますので、丁度当初予算どおりとなる感じですが、ですから予算を大きく割り込むことは今のところないだろうと考えております。

【住田委員】自然現象でどうにもならんことでしてね、水道局としては大変努力して改善を進めてこられて、そういう意味では、おっしゃられた様にずっと前年比が落ち込みがあったとしても、予算組みをされて仮に赤字になったら、堂々と補正予算を組まれたら良いと私は思います。怠けておって穴が開いたならこれはけしからんとなりますけれども、どうにもならん現象でこういったことが起きる可能性がある訳です。私監査員ですので、水道局の実績がマイナスになるようなら補正予算を堂々と組まれてください。来年は良いことがありますから、ということです。

他に何かございませんか。

【吉居委員】私が思うのは、原水をサントリーなどの大企業に、直にその水を売ることができないものかと考えます。

【八幡次長】サントリーさんなんかは、実はどこかから水を買うよりも自前で井戸を掘るのが当然一番安い訳です。それであの場所を選定されて非常に評判が良いもので、井戸を増設して増産されると聞いております。よそから買うよりも、事業をする側は直接調達した方が間違いなく安い。言い換えると、水道水を自前の井戸に切替えるところがありますが、それも同じです。

【吉居委員】自前の井戸は県条例で許可がなかったら、地下水を汲み上げることはできませんけれど、企業に直に売るか市長が頑張って企業誘致してそこに水道局の原水を直に売る。

【八幡次長】 そうすると給水区域内でないといけないことになりますので。米子市にあれば良かったんですが、いかんせん今は行政が違うもので手出しができないという状況になっております。

【吉居委員】 私も委員会に出る前は、日野川の伏流水だと思っておって、地下水が 90 何%もあるとは知らなかったです。だからその水を企業を誘致して、原水を直に売ると。

【八幡次長】 米子市は水道水が良いと企業誘致をされるんですけど、実は水がそんなに沢山じゃんじゃかある訳ではございません。一説に依りますと、大山の恩恵を受けた地下水は、約 50 年前の水を飲んでいると言われております。遡って 50 年前と言いますと、大山のブナを切った時期になります。一番保水力のあるブナの木をどんどん切ってしまったもので、今はまた植樹をしたり育てる方向に力を注いでおります。これが成長して保水力を発揮するのに、大体 70 年位かかってしまいますので、なかなか今から挽回はできません。その間に保有した水を、現在食いつぶしている状態ですので、外にどんどん使いますと限りある資源がなくなってしまうことになります。本当に沢山余ってれば、水は海に流れていくだけですので有効活用すべきだと思いますが、環境を壊してしまいますと、環境を復元するまでに 100 年とか 200 年の単位で時間がかかります。地盤沈下が起きるのも、地下水の汲み上げが多いからですので、必要なものを必要なだけ、条例が作られたのも影響を及ぼさないようにしようというのが大原則ですので、おっしゃる様に何処かにどーんと売ることができない状況です。またそれができる様ですと、他の所に簡単に水道の井戸を掘って、うちの施設をリニューアルすればいいんですけど、なかなかいい場所が選定できずに試行錯誤している状態ですのでご理解いただきたいと思えます。

【住田委員】 他に何かございませんか。それでは決算についてはこれで終わりたいと思えますがよろしいですか。ありがとうございました。

(2) 新配水池設置事業の進捗状況について

＜案件説明：松前施設課長＞

配水池設置事業の進捗状況についてご説明さしあげます。

最初のページをご覧くださいますと、資料のイメージ図がございますが、それに近い形の物が出来上がるのではないかと考えております。

今までは桜の苑の側から写真を撮っておりましたが、頂上が開けたので市街地の方を写真に撮ってみました。遠くは島根半島から大山までくっきり見えるような素晴らしい眺望になっております。

平成 25 年 4 月から平成 26 年 1 月までは、前回の審議会でご説明させていただいております。土木工事が大部分でこの夏頃から配水池を設置するための造成面の切土工事をメインで進めており、南部配水池周辺の法面保護工事を行っております。

法勝寺川水管橋建設工事について

一番最後のページになりますが、配水池設置事業に付帯する工事としまして、戸上水源地と配水池の相互連絡のため、水を送るための法勝寺川水管橋建設工事、写真の左が実際に乗せる物ですけれども、ステンレス鋼管の 800mm と 400mm で構成された水管橋になります。

戸上水源地へ搬入は済んでおりまして、右の写真のとおり下部工として橋台と橋脚はもう出来ています。10 月 20 日までが工事抑制期間でしたので、今月末から工事を再開し、左岸の橋台の工事に取りかかりまして、左の写真の本体を乗せる工事を行います。3 月末頃には法勝寺川を渡る姿が見られる様になるのではと思っております。

送配水管布設工事について

送配水管の布設工事ですが、今回 400mm から 1,000mm の耐震管を約 3,950m 全体で布設する事になります。1,000mm については配水池から下りて車尾水源地内の一番大口径の 800mm に接続する工事を現在進めております。中段左の写真は埋設状況、右の写真は米川が開削出来ませんので、1,400mm の推進管を推進工法で埋設し、その中に 1,000mm の水道管を入れていきます。

全体の進捗率について

6 月末現在で 40% 程度でしたが、9 月までの 2、3 ヶ月のスピードを見ますと 50% 位の進捗率になっているのではないかと思います。工事は当初の予定どおり平成 28 年 3 月の完成、6 月運用開始に向けて全力で進んでいる最中でございます。

安全祈願祭について

最後になりますが、下段の写真ですが、平場を造りましてこれから建築に取りかかって行きますので、貴布禰神社の来海宮司によるご祈祷のもと、米子市長、日吉津村長、米子市議会議長等を来賓としてお招きして地鎮祭・安全祈願祭を開催しております。

質疑応答

【住田委員】ありがとうございました。皆さん何かございませんか。
よろしいですか。

それでは事務局から連絡事項がありますでしょうか。

2 事務連絡

【鷺見補佐】次回審議会の開催は2月末頃を予定しております。
以上で今審議会を閉会します。